

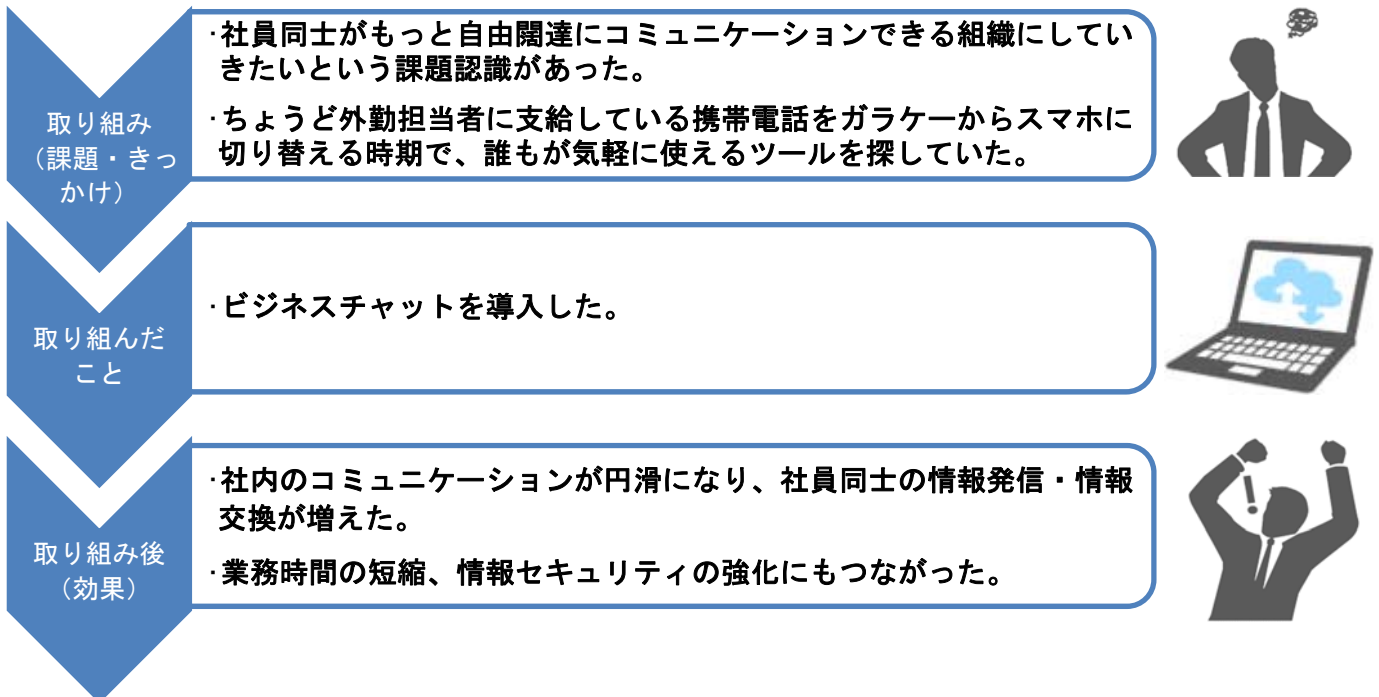
株式会社クリエアナブキ



- ✓ ビジネスチャットを導入。社員同士の円滑な情報交換、情報共有が可能となり、社内コミュニケーションが円滑になった。
- ✓ これまでメール作成に費やしていた時間が短縮され、業務の効率化にもつながっている。

導入した IT ツール

- ・コミュニケーションツール（チャット）
（「LINE WORKS」 ワークスマバイルジャパン株式会社）

導入のきっかけ・取り組み・効果



<p>コスト(費用)</p> 	<p>初期費用 ・1つの拠点（15～20人）で、30日間の無料トライアルを活用。</p> <p>拡充費用 ・正式に全社に導入した時から費用発生。</p> <p>保守運用 ・1アカウント300円。プランによって料金が異なるが、一番低額のプランを利用している。</p>
<p>メリット(効果)</p> 	<p>（当初）・社内のコミュニケーションが活発化した。形式的でないちょっとしたことが伝えやすくなった。</p> <p>（現在）・社内の情報交換に費やす時間が、社員1人につき1日10分程度削減。時給1,600円、社員数80人で換算しても、年間500万円、2年で1,000万円程度の人件費削減につながっている。</p> <p>・業務時間短縮につながった。情報セキュリティ強化にも寄与している。</p>

活用の状況（どんなことができているか）

○社員同士のコミュニケーションが活発になりました。

- 現在使っているビジネスチャットは、社員の多くがプライベートで使い慣れているメッセージアプリの機能に近く、身近なところが魅力でした。
- ちょっとした伝言、指示、相談など、これまで電話やメールで連絡していたことにビジネスチャットを用いるようになりました。外勤担当者は社用のスマホで、内勤担当者はパソコンで使用しています。
- 例えば、外勤担当者あてに電話がかかってきた時に、伝言を連絡したりしています。また、近くにいる内勤の担当者同士でも、話しかけたい相手が電話中で、後回しにしたら結局忘れてしまうといったことがなくなりました。
- 部下から上司に対して「今日相談したいことがあるのでお時間いただけませんか」などの頼み事も、これまでより気軽にできるようになりました。メールの場合、件名やあいさつ文を考えるとところから始めなければなりません。ビジネスチャットは1~2行でよいので、心理的なハードルが低くなりました。
- 現在は、比較的オフィシャルな伝達事項はメール、社員同士の簡単なコミュニケーションにはビジネスチャットと、個人の判断で使い分けていますが、今後徐々に使い方のルールを整理していきたいと考えています。

○業務時間の短縮にもつながりました。

- ビジネスチャットは、メールより短い文章やスタンプで用件を伝えることができるので、効率的だと思います。メール作成等、社内の情報交換に費やす時間が、社員1人につき1日10分程度は削減されています。
- 主にメールを使っていた時は、相手を読んでくれたかどうか分からずに、やきもきすることもありました。ビジネスチャットでは「既読」の印がつくため、相手から返事がなくても読んでいることは分かるので安心です。おかげで、自分のペースを乱されずに仕事ができるようになりました。

○情報セキュリティも強化されました。

- 以前は、社用の携帯電話とプライベートの携帯電話を併用する例がみられました。誰もが気軽に使えるビジネスチャットを全社的に導入することで、社用の携帯電話に情報を一元化し、情報セキュリティを強化することができました。

○社内の掲示板や打ち合わせでも活用しています。

- ビジネスチャットの掲示板機能（お知らせ機能）も活用しています。管理者が「情報共有」、「スタッフ募集のためのツールやノウハウの共有」、「社長の部屋」、「社員の自己紹介」などのカテゴリーを分け、社員がカテゴリーを選んで発信・閲覧をしています。
- ビデオ通話機能や画面共有機能を用いて、打ち合わせをすることもあります。同じ画面を見ながら打ち合わせをすることで、議論が円滑に進むようになりました。また、自分の支店にいながら打ち合わせをすることが可能となり、打ち合わせのための移動時間も削減されました。

コストと効果について

○導入・運用費用（1年目）

- 全社の業務企画・推進を担当する部署（社長直轄）で、導入するツールを探しました。元々、別のビジネスチャットツールを使っており、複数の企業が同じようなサービスを提供しているのを知っていました。その中で、プライベートでも利用率が高いメッセージアプリと同じインターフェースのサービスについて改めて詳しく調べ、導入を検討しました。
- 社内に IT の専門家がいなくても導入しやすいもの、かつ導入後に社員の誰もが使いやすいものを探しました。画面が見づらい、使いづらい、格好が悪いなどの理由で、採用に至らなかったものもあります。
- 最初の無料トライアル期間（30日）は、1つの拠点（15～20人）で試験的に導入しました。特に問題は起こらず、「ちょっとしたことを伝えやすくなった」など好意的な意見が多かったので、全社に広げました。
- アカウント代を節約するため、内勤の部署については、1つのアカウントで運用できないかも検討しましたが、使いやすさを優先し、1人1アカウントで導入することにしました。
- 導入を発表した時には、ツールが増えることによる手間を懸念する少数意見もみられましたが、実際に使ってみると、そのような心配はなくなりました。現在では、不満の声はほとんどありません。

○定着・拡張費用（2年目）

- プランによって1つのアカウントの金額が異なり、アカウント数に応じて費用が決まる仕組みです。現在のところ、一番低額のプランを導入しています（1アカウント300円程度）。

○効果

- 社内の情報交換に費やす時間が、社員1人につき1日10分程度削減できました。時給1,600円、社員数80人と換算しても、年間500万円、2年で1,000万円程度の人件費削減につながっています。もしかしたら、多く見積もっているかもしれませんが、やはりメリットは大きいです。

Q&A

ーIT化の旗振り役は？

- 全社の業務企画・推進を担当する部署が、業務改善の観点から提案し、情報システム担当部署と連携しながら進めてきました。
- 経営層に提案した時もすぐに賛同が得られ、円滑に導入が進みました。

ー社内にITに詳しい人はいますか？

- 情報システム担当部署に2名の社員がいますが、プログラムを書ける人はいません。

ー費用対効果についてどうお考えですか？

- 導入当初から、支払う費用以上の効果（メリット）があると感じていました。1日1分でも減っていれば十分に費用対効果はあると考えています。



株式会社クリエアナブキ

<https://www.crie.co.jp/about/data.html>

〒760-0026 香川県高松市磨屋町2番地8 あなぶきセントラルビル

主な事業：人材派遣業、人材紹介業、アウトソーシング、研修・組織人事コンサルティング等

設立：1986年4月

資本金：2億4,340万円

従業員数：103名（うち人材サービス事業部門80名）（2019年4月時点）